

羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL
教職を目指す学生・卒業生のために

COMPASS

第73号 23.6.25(土)発行

関西外国語大学 教職英語教育センター SCET

教育実習から教員採用試験へ

ラストスパート・・・いよいよ本年度の教員採用試験の始まりです。

教育実習がほぼ順調に終わり、ほとんどの人が大学に戻ってきました。教員採用試験受験者は、このあとは試験を待つみの臨戦状況です。受験する地区により多少の期日のズレがありますが、1次・2次合わせて、7月初旬～9月中下旬のほぼ2か月半の長期戦となります。真夏の暑いさなかで、かなりのエネルギーが必要ですが、万全でしょうか。何よりも体調を十分整えて、心身ともにベストコンディションで受験に臨みましょう。

1次試験の結果が発表されるのが、7月末から8月の中旬に予定されています。発表直後の8月中旬から、教職英語教育センターでは、1次に引き続き、2次試験に対応した受験対策を講じる準備をしています。皆さんの期待にそえるように精一杯の支援をします。

教員採用試験に合格するために

教職英語教育センター所長の網倉先生がいつも述べられていることを次に列挙しておきます。もう一度確認しておきましょう。

1. 「必ず合格する」という強い気持ちを持つこと。

2. なぜ、自分が教職をめざしているのか、教員になればどのような教育をめざしたいのか。

教員採用試験に合格するのは、教員になるための第一歩に過ぎません。重要なのは、「採用後、どのような教育を行うのか」です。面接試験や小論文などの機会に必ず確認されますので、自分のめざす教育、教員像をきちんと整理してください。迷うことなく、しっかりと言い切ることで。

3. 「自己PR」を繰り返し練習すること。

例えば、1分間で自分をPRする練習を繰り返し、繰り返し行ってください。その際、留学、ボランティア、部活動等の経験や体験を具体的に入れてください。どうすれば面接官に強いインパクトを与えることができるか、常に考えて練習を繰り返しましょう。

4. とにかく1次試験合格の準備に集中すること。

大部分の都道府県及び政令指定都市では、ご承知の通り一般教養と教職教養の筆記試験が実

施されます。一部教職教養がないところもあります。どこの受験地も年々高まっていますが、1次試験から面接試験を実施しています。面接で人物評価を重視している表れです。

とはいえ、筆記試験を軽視すると大変です。最低限度の教養(知識)がなければ、実際の教員として仕事が務まりません。ですから、もう一度、過去問を5年間分徹底しておさらいしておくことです。

1次試験の段階から英語の専門科目が課される場所は万全に用意しておくことは言うまでもありませんが、そうでなくとも、メインの英語の勉強だけは毎日欠かさずやり続けておきましょう。また、大阪府をはじめほとんどの都道府県・政令指定都市において、模擬授業が課されています。みんなで面接練習の際、これをメニューの一つに加えておくこともお勧めです。

今年の教採合宿(5/21・22)から

参加者人数はそれほど多くなかったのですが大変充実した勉強ができたように思います。先輩のOB・OGの方々を例年のようにチューターとしてお迎えし、多くの有意義な指導助言を得ることになりました。受験本番まで待たなすで寸分を惜しんで勉強に励む貴重な時期、合宿で頂いた先輩からのメッセージを、あらためて羅針盤に投稿してもらいましたのでここに掲載します。また、参加者の感想もあわせて記述しておきます。

<先輩からのメッセージ>

小谷 延良さん 大阪府立八尾高等学校教諭

外国語学部 英米語学科 平成18年3月卒業

はじめまして。小谷延良と申します。私は2006年に英米語学部を卒業し、2007年4月より大阪府立八尾高等学校に勤務しております。今回原稿を書かせていただけるということで非常に光栄に思いますし、この原稿が少しでも多くの方のお役に立てれば幸いです。

今回私が教員養成合宿でお話しさせていただいたことを2点書かせていただきます。

① 教師として必要な資質

私が考える教師として必要な資質は2つあります。1点目は「専門教養力」です。この専門教養力は一プロ教師である以上絶対に揺らいではいけない柱であり、絶対の自信を持っていないわけにはいきません。むしろこの専門教養力に自信がないと教師としての資格はないと言っても過言ではありません。校種や学年は関係ありません。生徒や一般の方からすると英語教員は英語のプロなのです。ましてや外大卒である以上、英語力は秀でていて当然なのではないでしょうか。また、どれだけ授業運営の技術を身に付けても英語力が不足しては本末転倒です。英語の力があって初めて授業の技術が生きてくると私は考えますし、それが児童・生徒、そして保護者からの信頼にも繋がると思います。ですので、「英語力には自信があります」と胸を張って言えるように日々の英語力の研鑽を怠ることなく精進して行って下さい。そして我々は単なる教員ではなく、プロの教員であることを忘れないで下さい。

2点目は「人間力」です。「人間力」とは一言では表しにくいのですが「人の模範となれる

人格」と表現するのが適切かと思います。ではどのような人が人間力が高いのかと言いますと例えば以下のような項目が挙げられます（紙面の都合上一部のみ掲載しています）。

- ・大変なことから目をそらすことなく、何事も自分から率先垂範して行っている。
- ・常に半歩先のことを考え、明確なビジョンを持って教育（学業）に当たっている。
- ・手を抜いたり、他人任せにしたり、中途半端で終わらせることなく何事にも日々全力で取り組んでいる。
- ・ボランティア活動や講演会、研修会、勉強会に参加したりして自己の研鑽に努めている。
- ・靴を脱いだら必ず揃えている。また、自分の物なくても乱雑な状態であれば揃えている。
- ・ゴミが落ちていたら自分に関係のないものでも拾って捨てている。

以上の項目は「教師として生徒・児童に示す姿」といえます。この人間力は点数や数値では表せない力ではありますが、人として極めて重要なものなのです。また、それらの項目に共通することは何だと思われますか。それはほとんどが気持ちの持ちようで誰にでもできることばかりです。また、これらの項目は私が適当な思い付きで挙げたものではありません。これまで研修や勉強会を通して出会った先生方が率先して実践されていること、心がけておられることでばかりであり、大変質の高い学び、実践ばかりです。「何だ、こんなのばかばかしい」と思っているようではそれは素人の考え方であり、一プロ教師を目指す人の考え方ではありません。できていない項目があるということはそれは心の怠け、甘えがあるということです。こういったことは当たり前でできなければいけませんし、生徒にも指導しこれらを当たり前でできる生徒を育成しなければいけませんし、また、自分が気付かないうちに自然と普段の振舞いや仕事に表れます。そしてこれらの項目を日々繰り返していくことで、それらが習慣になり意識せずに行えるようになります。これを「自動化」と言います。前述したようにこれらは気持ちの持ち方次第で誰にでもできることです。そしてこういった「人間力」が教師としての礎となり、初めて質の高い教育ができると私は考えます。全て自動化になるようにできることから少しずつでよいので、まずは一つ一つ高いレベルで完璧にできるようご自身で実践してみてください。やりきることで必ず何か得るものがあるはずです。

② 勉強

勉強とは机に向かってする勉強のことだけでなく、研修会や勉強会に参加したり、学んだことを実践し学びを深めることなど全てのことを指します。私は勉強をすることは「自他を幸せにする最高の方法」だと思います。これは教師としてだけでなく全ての人に当てはまることだと思います。例えばビジネスパーソンに例えると、自己が研鑽を積み、知識を磨くことで自身の仕事の幅が広がり、成果が上がり、その結果昇進し、給料も上がる。そして家族により豊かな暮らしを提供できる。また、さらに顧客に良いサービス、商品を提供することもできます。

一方、教員の業務は営利目的ではありませんので、一般企業の方とは少し異なりますが、逆にそれが魅力の一つだと思います。つまり、損得勘定なしで、一人間として人と向き合える最高の仕事なのです。そして私が考える教員としての一番の仕事は「児童、生徒を幸せな方向に導くこと」です。その可能性を高める方法として自己の研鑽、日々の勉強が挙げられます。例えば、英語力や授業運営力、生活指導力、部活指導力を磨くことで自身の能力、スキルが上がり、そしてその結果、より質の高い指導が提供できます。そうすることで生徒の力を引き出し、可能性を磨き、より最適な進路へ導くことができます。さらに学力が上がり高校、大学合格、または学費免除で入学できることなども生徒だけでなく、その家族にとっても大きな幸せなのではないでしょうか。逆に言えば教員の指導力、知識不足ほど生徒を不幸にしてしまうものではありません。ですので、我々教員は自己と生徒のために日々の努力を怠ってはいけません。

私は常々「歩みをやめた人間は死んでいるのと同然」と考えています。現状に満足してしまい、向上心を失ってはその時点で終わりだということです。我々教員は成果が出なくても決して首になることはありません。しかし、プロとして生徒の命と将来を預かる以上、それなりの自覚と責任感が必要です。皆さんもそういった責任感とプロとしての自覚を持った一流の教師を目指していただけたらと思います。最後に、まだ経験も浅く未熟な私ですが、約4年間の実践から得た教訓を紹介させていただいて終わりたいと思います。ご精読有難うございました。

「自分を変えれば生徒も変わる。どんな時も主体変容」

「気を抜かない、手を抜かない、嘘をつかない。本気でやれば本気の結果がある。何事にも本気。常に責任感を持って教育に当たること」

小谷延良

井坂真士さん 東大阪市立英田中学校教諭

外国語学部 英米語学科 平成22年3月卒業

東大阪市立英田中学校で勤務しております井坂真士と申します。2009年度に大学を卒業し、現在教員生活2年目です。先日行われた教職合宿に参加された学生の皆さんお疲れ様でした。また、今回の合宿に声をかけてくださった諸先生方ありがとうございました。

さて、教育実習・教員採用試験が日に日に迫ってきています。準備はできているでしょうか。焦る気持ちは私も経験したのでよくわかります。しかし、焦っているだけでは何も始まりません。そこで、私から教員採用試験についてみなさんの参考になればと思い、アドバイスをさせて頂こうかと思えます。

とにかくこれからの時期は、面接練習を毎日欠かさずしてください。今のあなたは、予想だにできなかった面接官の質問に即座に答えることができますか。また、1分間以外で指定された自己PRができますか。「きっとこんな質問されないだろう。」「まさか英語で自己PRすることはないだろう。」と、タカをくくっていませんか。そういった質問をされるのが教員採用試験の面接なのです。どんな質問に対しても答えることができるように、日頃から意識して友達と何度も何度も練習をしてお互いを高めあってください。また、1つの質問に対して2、3通りの答え方ができるように準備しておいて下さい。というのも1つしか持ち駒がなければ、それを隣の受験生が言った瞬間自分の意見がなくなってしまうからです。そうなってしまうと頭の中が真っ白になってしまい、受かるものも受からなくなってしまう恐れがあるからです。そのためにもしっかりと友達と意見を共有化して持ち駒を増やしておくことをおすすめします。答え方がわからない質問については友達、先生方に聞いて自分のものにして下さい。

備えあれば憂いなし！！自信をもてるくらい、しっかりと準備をして下さい。そして最後は自分を信じて採用試験を受けてきてください。皆さんの合格を心より願っています。いつの日か一緒にお仕事できる日を楽しみにしています。

榮 静香さん 大阪府立千里高等学校 教諭

外国語学部 英米語学科 平成 20 年 3 月卒業

「協力は強力」

合宿一日目の夜、今年から念願の担任となった私は、集団作りに対する私の想いを皆さんにお話しました。「せっかく縁あって共に生活することになった私たち。40 人もいれば当然それぞれの長所も異なれば短所も違う。自分が得意とすることを苦手とする人が周りにいたら、その自分の力をその人のために使える、手を差し延べられる、そんなクラスになろうね」と生徒に想いを伝え、学級開きをしたお話をさせていただきました。

私がそれを学級目標とする理由は、「協力は強力」であると信じているからです。そして、実はこの私の信念こそ、外大教職英語教育センターが開いてくださるこの合宿と、そこで得た仲間との学び合いから来ているのです。合宿後、夜スペを受講するメンバーの中には、得意な数学を皆に教えてくれたり、教育関連ニュースを皆のために印刷して見せてくれたり、集団面接練習の声かけをしてくれたりする人たちがたくさんいました。「自分ができることを集団のために率先して行動する」という姿勢が、自然と夜スペ受講者の中で伝染していき、気付けば大きな協力しあう集団となっていたのです。一人で戦えばただ辛い教員採用試験も、皆助け合いながら一丸となれたからこそ、辛い試験も乗り越えることができました。ここで感じることできた「集団が協力し合ったときの力の強大さ」というものを、少しでも多くの人たちに知ってほしいという想いを、この経験から抱くようになったのです。

さて、今年もこの合宿を終えて約 1 か月が経ちました。あの合宿を通じて得た仲間と、助け合いながら今皆さんは勉強されていますでしょうか。自分一人だけが合格したときの喜びよりも、助け合った多くの仲間が共に合格できたときの喜びの方が、遥かに大きいものです。2 年前の夏、まずは 1 次試験を突破し、教職英語教育センターで皆と喜びを分かち合ったときのことを思い出すと、今でも胸が震えます。

さあ、あと残り 1 か月！できることは全てやり切って 1 次合格を勝ち取ってください。応援しています。

<合宿に参加して>

「教職合宿の感想」

外国語学部 英米語学科 3 回生 小見 将功

私は今回の教職合宿に参加して、さまざまなことを吸収することができました。やはり、先輩方や現職の先生方と交流することは大事だなと思いました。しかし、最初は合宿の迫りに圧倒されました。席から立つときや、座るときなどとても基本的なところから先輩方は皆きちんとしていて、志の差を感じました。これは社会に出たら出来て当たり前なんだなと思いました。

私は、今まで、先生になるまではとてもしんどくて、先生になったら後は楽になるものだ

とっていました。しかし、現職の先生方は先生になって後も苦勞がいっぱいあると話されていました。むしろ、悩みは先生になったときの方が多いと思います。実際に教壇に立って初めて直面する悩みもあると思うので、先生になって後も日々精進しなければならないと思いました。でも、現職の先生方は自分の仕事を心から楽しんでいるなどと思いました。なぜなら、私たちに話して頂くときに、ものすごく誇りを持って話しているなど思ったからです。来て頂いた現職の先生方のように、将来誇りを持って仕事をしたいなどと思いました。

二日目の日本語面接は、先輩方の完成度の高さに圧倒されました。自分の面接は全然うまくいかなくて悔しかったです。でも、現職の先生方から色々なご指摘を受けて、自分の足りない点を学ぶことができました。

あと1年間あるから…ではなく、あと1年間しかないから…と考えて、自分の足りないところを日々改善していきたいと思いました。そして、現職の先生方の言葉で印象に残ったのが2点あります。

一つ目は、藤原愛子先生の「大変は自分が大きく変わるとき」という言葉です。「大変」と聞いたら忙しくて余裕がないというイメージがどうしてもつきます。実際に私もそう思っています。しかし、その「大変」な時を乗り越えることができれば、人は大きく変わることができて、自分の成長につながるとおっしゃっていました。それを聞いて私は考えを改めました。今まで「大変」ということは避けたいと考えていました。しかし、それではなかなか自分自身が成長しないと思います。やはり人間は何かを乗り越えていかなければならないと思いました。「大変」なことは、ありがたいことだと、自分が成長できる時なんだと思えるようになりたいです。もう一つは、小谷延良先生の「勉強は嘘をつかない」です。この言葉は、生きていくなかでもなかなか気づきにくい言葉だなどと思いました。人間は勉強すればするほど知識も増え、選択肢もひろがります。選択肢も広がれば自分のできる事も増えていきます。勉強はすればするほど自分に身についていきます。ですからやはり勉強をすることは生涯において大事なことだなどと思いました。「生涯学習」という言葉があるように、生涯に渡って勉強することが必要だなどと思いました。今回の合宿に参加して、様々なことが学べましたが、その殆どが今から実践できることだと思います。ですから、日常から意識して改善していこうと思います。そして、「人間力」を高めていきたいと強く思います。本当にこの合宿は参加すると素晴らしいものが得られるので、他の皆さんにこのことを伝えて、次の合宿の機会にはたくさんの人と一緒に参加したいと考えました。

《受験対策特別講座(土曜リレー講座)》から(その2)

『これからの子どもたちに求められる学力』

外国語学部・英米語学科 3回生 市川 潤弥

今回のガイダンスに出席して私はとても驚きました。なぜなら、私たちが今まで受けてきた教育とは授業体系も考え方も全く異なっていたからです。これからは、ただ単なる知識や技能だけでなく、それらを活用できる力も兼ね備えることが求められているのです。

それでは、ここで一つみなさんに考えてもらいたいことがあります。今までの学校生活を思

い返してみても、真っ先に浮かぶものは何ですか。恐らく、修学旅行や友人と遊んだことなどいろいろ思い浮かんだと思いますが、授業のことは出てこなかったのではと思います。しかし、今の私たち、もしくは私たちの学力を形成してきたのは紛れもなく今まで受けてきた授業なのです。では、どうしてこのようなことが起きると思いますか？それは、生徒が主役ではなく、受け身の姿勢で授業を受けてきて、教えられた知識を使って与えられた問題を解くといった単調な作業の繰り返しだったからです。しかし、これから教員になる私たちがこれと同じことをしてはいけないと思います。

藤村先生の言葉の中に、とても印象的な言葉がありました。それは、「授業とは、教師の持つ知識の披露の場ではない」です。授業の主役は教師ではなく、あくまで生徒なのです。この話を聞いて、私はただやみくもに自らの知識や英語力を高めるのではなく、実際の指導や授業を見据えたうえで能力を養う必要があると感じました。

最後に、私はこの講義に参加するたびに、いろいろなことを学ばせてもらいとてもいい刺激になっています。外部の先生方を始め、このような機会をつくっていただき本当にありがとうございます。

「学力」と「教師力」

外国語学部・英米語学科 3回生 赤川 尚

今回の講義のテーマは「これからの子どもに求められる学力とは？」でした。その講義の中で、学力とは「知識技能」と「活用力：思考・判断・表現」の二つの核がバランスよく、存在するものと定義されていました。その二つの核について、「知識技能」は使えなければ無意味であり、「活用力」は積極的な意欲と態度を引き出せなければ育むことができないとされていました。

そこで必要な存在が教師であると思います。それは、教師の授業前の準備と言葉かけによって、児童生徒のやる気や興味関心を煽ることができるかどうかが決まってくるからです。知識を得ることや物事に取り組む時には、「なぜ？」という「疑問」や「どうなるだろう？」「やってみよう」という「期待」が大切になってきます。その「疑問」や「期待」をもつことで「知りたい」という気持になり、三つの活用力：思考・判断・表現を最大限に使った、活発で有意義な授業になると思います。そして、活動が始まれば児童生徒は必死に授業に参加すると思います。その時に、教師は児童生徒の発言や考えにしっかりと耳を傾け、もしやるべき内容から少しでも、絶対否定せずにサポートしていくことが大切だと思います。それは、児童生徒が「知りたい」「やってみよう」ということを否定すると、児童生徒が学習意欲を失ってしまうからです。確かに、計画通り授業を進めたいと思いますが、そのことも考慮して計画を立て、それた時はやるべき内容に関連付けながら、やるべき内容と児童生徒がやりたい内容を統合し授業を進めていくことが教師のすべきことであると思います。つまり、「これからの子どもたちに求められる学力」は、余裕のある授業計画と幅の広い人間性を備えた教員が必要であると考えます。

今回の講義は、これから教員になりたいと考えている私にとって、これからの子どもたちに求められる学力とは何かということを知ること共に、その学力をつけるにはどのような教師にならなければいけないかということを考える、大変有意義で価値のあるものでした。

『これからの子どもたちに求められる学力』

外国語学部・英米語学科 平成20年3月卒業
高木亜主加さん(高槻市立阿武山小学校教諭)

先日は、「これからの子どもたちに求められる学力」についての講演を聞かせていただき、ありがとうございました。

学習指導要領の改訂に伴い、今年度から小学校の教科書が新しくなり、学習内容が増えました。今年度、赴任校では算数科に重点を置き、問題解決学習について校内研修を行っています。実際の学校現場で今学んでいる内容と重なる部分もたくさんあり、大変勉強になりました。

時代の流れの中で、子どもたちに求められている学力というものは変化しつつあります。「学力」とは、①基礎的な知識・技能、②思考力・判断力・表現力などの活用力、③主体的に学習に取り組む力である意欲・態度だと学校教育法第30条に書かれています。その中でも1番の土台となっているのは、関心・意欲・態度です。子どもたちが「知りたいな・学びたいな」という気持ちにならなければ、知識や技能は身につかず、活用することもできません。

実際に教壇に立ってみると、日々の学習内容の多さに負けて、教師が一方的に教えてしまうこともあります。子どもたちの「もっと学びたい!!」という気持ちを引き出せるような「探究型学習」をしていかなければならないと再認識しました。

「知識＝活用する力」という話の中で、具体的に「三平方の定理の活用」のビデオを見て、「自己解決」→「練り上げ」→「まとめ」の授業の流れがありました。実際に、1年生の今の時期から、問題文に書かれていることを自分一人で考え、「図・言葉・式」で表し、ペア・グループで考えを交流し練り上げ、最後にクラス全体で考えを交流し、まとめています。それと同時に、昨年度までICTの活用についても取り組んでいたため、各教科で実物投影機やデジタルコンテンツなども活用しながら授業を行っています。導入の工夫が探求型学習へとつながります。個人で考える時間を十分に取ることで思考力の育成につながり、練り上げることでさらに知識を増やすことができます。子どもたちの「もっと知りたいな」「もっと学びたいな」という気持ちを大切に、明日からの授業に取り組んでいきます。

いつか、みなさんと同じ教壇に立ち、一緒に子どもたちの学力について考え、授業を組み立てていく日を楽しみにしています。

〈教育実習体験記〉

苦悩→楽しみ→感動の3週間

外国語学部・英米語学科 4回生 山口 美里

教育実習2日目、教室の窓ガラスが割れました。その場にいた生徒に「先生呼んできて!」と頼みましたが、その子はすぐに戻ってきて、私を指さして「先生ここにおるやん!」と笑顔で言いました。その時、「今ここで実習している私は、生徒にとっては実習生ではなく、先生である」ということを改めて感じました。これが私の怒涛の3週間の始まりでした。

1週目は空き時間がないくらいに授業見学をさせていただき、現職の先生方の指導方法や教材を見せていただきました。実習5日目から授業をさせていただくことになり、そこからは毎日、教材研究と指導案の作成に追われていました。2週目にはALTの先生とのチーム・ティーチングも4コマさせていただきました。そこでの私の役割は、通訳とデモンストレーションの手伝いでしたが、ALTの先生の英語を、どこまで日本語にしたら生徒は生の英語を聞きつつ内容理解できるのか等、考えることが多かったです。授業では、同じ教材を使っているけど、生徒の反応は全く違うので、うまくいく時もあれば、失敗の時もありました。その度に一喜一憂して、指導教官の先生に励ましていただきました。教材としては、流行っているアニメのキャラクターや芸能人を使いました。普段あまり授業に集中していない生徒たちも、工夫して作った教材には興味を持ってくれたし、積極的に授業に参加してくれました。3週目には研究授業があり、一般動詞の導入を授業でさせていただきました。その時にいただいた意見の中に「生徒を叱るのではなくて、褒めてあげなさい」という言葉がありました。喋っている子を注意すると、私自身もイライラしてしまうし、自然とそれが授業の雰囲気が出てしまう。それよりも、よく出来た生徒を誉める所を見せることで、「自分も褒めてもらいたい」という気持ちを抱かせる、そうすれば授業にも集中するようになるし、クラスの雰囲気も良くなる。ということでした。この実習では、合計で28コマの授業と体育祭に参加させていただきました。

この3週間は「教師になる」という私の気持ちを、さらに強いものにしてくれました。勉強が得意ではない子たちが「先生の授業楽しかった」と言ってくれたり、いつもはしない宿題をしっかりとしてきたり、単語テストの勉強もちゃんとしていたり、毎日嬉しいことがありました。「先生は先生やけど、何でも話せる。元々明るいクラスが、先生が来てくれたことでさらに何倍も明るいクラスになった。ここで働けばいいやん！クラス皆で応援してるから、絶対に先生なって戻ってきてな」という生徒からの言葉は、この先忘れることはないと思います。両手いっぱいにもらったプレゼントは一生の宝物になりました。もう会えないと思っていましたが、また7月に訪問させていただく機会を作っていただきました。生徒もそれをすごく喜んでくれて、その時に期末テストの結果を報告してもらうことになっています。私が教えた範囲がテスト範囲でもあるので、どれだけ定着しているか不安でもありますが、また会えることを楽しみに、次は教員採用試験の合格を目指して、大学での勉強に励みたいと思います。

「教育実習を終えて」

外国語学部・英米語学科 4回生 柴原 実和

3週間、あっという間だった。1日1日が本当に貴重な経験に満ち、充実していた。第1週は、様々なクラスや学年で授業観察をさせていただいた。教師だけでなく生徒の動きや反応などをじっくりと観察することで、クラスそれぞれの雰囲気を感じ取ることが出来た。この経験は、その後の授業を行う際にとっても役立った。また、朝礼や終礼で話をさせていただく機会があり、その機会を生かして生徒とコミュニケーションを多く取ることを心掛けた。初めは距離を取っていた生徒も次第に私に近付いて話し掛けてくれ、「先生」と呼んでくれる

ようになった。互いの心が近くなった気がして、とても嬉しかったのを今でも覚えている。

第2週は、全てのクラスで実際に教壇に立って授業を行った。私は中学校1年生の5クラスを担当させていただいた。板書を抜かしてしまったり時間が足りなかったりと指導案通りに授業を行えないときがあり、教諭から厳しい言葉をいただいたこともあった。「なぜ上手く行かなかったのだろう」と考え始めるとどんどん気分が沈んでいき、落ち込んでしまうこともあった。しかし、授業中の生徒の真剣な目や理解できた瞬間の笑顔を出すと、本当に背中を押される気持ちになった。「理解できた瞬間の笑顔が見たい」という前向きな気持ちになることで、よりよい授業やよりよい指導案作りに気持ちを繋げていくことができた。2週目も後半に差し掛かったときには、生徒一人一人に気を配りながら落ち着いて授業が行えるようになってきた。しかし、板書については毎回指導を受け、見やすく生徒に優しい板書作りが私の課題となった。

第3週も引き続き、全てのクラスで授業をさせていただいた。第2週目よりもより落ち着いて授業を行えるようになっただけでなく、テンポよく各段階を進めていけるようになった。板書も、指導教諭に褒めていただけるほど上達することができた。文字カードの使用と色チョークの使い分けによって以前よりはるかに見やすい板書ができるようになり、成長を実感することができた。最終日には研究授業を行った。岡澤先生が見に来て下さり、3週間の中で最も緊張する1日となった。研究授業は、正直あまり納得のいくものではなかった。後悔や反省が多く残る結果となってしまったが、無事にやりきったという達成感と安心感を得ることができた。最終日の終礼で、生徒から「絶対三重で先生になってな」という言葉とともにメッセージカードや手紙、花束をプレゼントされた。本当に嬉しかったが、それと同時に今日で終わりなんだという寂しさも感じた。

教師という職業の責任の重さや大変さだけでなく、魅力や奥深さを学ぶことができた3週間であった。また、「教師になりたい」という気持ちを更に強めることができた。熱心に指導してくださった先生方と、積極的に授業に参加してくれた生徒に本当に感謝したい。

「私の教育実習」

外国語学部・英米語学科 4回生 岡 美樹

私は母校の高校に3週間、教育実習に行ってきました。私の高校はここ数年で中学校ができ、中高一貫になったので実習では中学、高校どちらにも授業に行くことになりました。クラスは難関国公立大学を目指す特進コース（1, 2, 3組）から、学習とクラブ活動を両立し、有名私立大学を目指すコース（4, 5組）、また将来はプロを目指すクラブコース（6, 7組）とコース毎に分かれています。私が担当したのは中学1年1組、高校2年1組と2組、高校3年3組と5組で、とても幅広く授業をすることになりました。というのも、1, 2組に関しては授業の環境は整っており、どれだけテンポ良く、横に知識を広げていくことができるか、演習がたくさんできるかが重要ですが、5組に関してはまず授業の環境づくりから始めなくてはなりませんでした。

また、私のホームルームクラスは高校2年1組で2週間後には海外へ研修旅行を控えてお

り、限られた時間の中で少しでも多くの生徒達と触れ合うことが課題でした。そこで私は生徒と関わる機会を自分から作っていかうと考えました。例えば、研修旅行で現地の学生に披露するソーランやダンスの練習を放課後に一緒にし、できるだけ生徒といる時間を作りました。また、生徒と教師との交換ノートがこの学校ではしていたので、実習中は私がコメントを書くようにし、生徒の好きなことが書いていけば、自分の教育実習ノートにメモをし、覚えておいてそれをきっかけに話をするようにしていました。他にも生徒の名前を早く覚えるようにして、先に名前を呼んでから声をかけるようにしていました。生徒と話す機会をどんどん作っていかなければ、あっという間に3週間は過ぎてしまいます。生徒から話しかけてもらうのを待つのではなく、自分から発信していくことはとても大切です。

授業の面では、実習1週目の後半から私にとって初めての授業が始まりました。中学の授業は1つの単元を教えるのに、さまざまな方法や副教材を使うのでとにかくいろんな先生の授業見学に行って、良いところをたくさん学び、授業に生かすようにしていました。高校1、2組での授業は、どのくらいのテンポで授業を進めれば良いのか分からず、一つの文の説明に時間をかけすぎたり、同じ説明を何度もしてしまい、時間配分の難しさを痛感しました。また5組の授業ではチャイムが鳴っても騒がしいままでしたが、自分の事に必死で注意をしないまま、授業を始めてしまい、指導教諭から「まずは勉強させる環境づくりがからやらないと。それと5組ではその声の大きさじゃ誰も聞いてくれませんよ。」と指導され、とても反省し、このままではいけないと強く思いました。次の授業では、今やっているセクションの内容を絵にして持って行きました。最初に全員の教科書を閉じさせ、前に注目させます。そして紙芝居形式で必死になって内容を説明していきました。そうすると生徒達は「そういう事を言ってたんか。」と言ってくれました。あまりにも大声で授業をしたもので次の日には声が出ないほどでしたが、その様子を見て生徒達が「先生、がんばってや。」と言ってくれたので、ものすごく元気が出ました。

最初から上手くいかないのは当然です。しかし、教師が必死になって伝えようとすれば生徒達も聞いてくれようとしています。3週間で学んだたくさんの事や、「私は絶対に教師になるのだ!」という、より一層強い気持ちを胸に教員採用試験に向かって日々努力していきます。

「教育実習を終えて」

外国語学部・英米語学科 4回生 西野 崇仁

私は、教育実習が始まるまで不安な気持ちでいっぱいでしたが、実習を終えて、振り返って見ると、一日一日が勉強で、とても充実した3週間でした。

実習初日は、オリエンテーションがあり、教育実習生6人が応接室に集合しました。部屋の空気は緊張感に包まれながら、先生方のお話が始まりました。その中でも校長先生のお話はとても印象的で、「教育実習生は生徒からすると、高校の先輩だけど、教壇に立ったら現職の先生と同じです」と言われたとき、関西外大の学生として恥じないように過ごそうと決心しました。また、先生方が共通しておっしゃっていたのは、「言葉使いに気をつけなさい」ということでした。生徒一人ひとり性格が違い、様々な悩みを抱えているので、言葉を選んで話さないと生徒を傷つけることになるからです。実習校は、共生推進教育という障がいを持

った子どもを対象にした授業が行われているので、より言葉には気を配ろうと思いました。

教育実習1週目は多くの先生方の授業を見学させていただき、自分の目標とする先生を探すように心がけました。私が理想とした先生は何人かいましたが、中でも生徒の発言機会を多く授業に取り入れていた英語の先生に憧れを抱きました。その先生とお話をしている、感激したのは「授業中は生徒の気付きを大切にしなければならない」という言葉でした。生徒は自分で答えを導くことで、英語に興味を示すようになるので、回答に時間がかかっても、先生は待つてあげるようにしなければならないと思いました。

また、2週目からは授業を任せていただけました。私が担当したところは、分詞構文や仮定法といった、英語が好きな人でもつまづく可能性がある英文法でした。指導教諭からは一回の授業で生徒たちに分かってもらおうとせず、反復して彼らに定着させてあげるのが重要であるとアドバイスをいただきました。私は、一人でも多くの生徒に理解してもらえるように、模擬授業を指導教諭に見ていただきました。そのときに良く言われたのは、英文法を教える上で心がけなければならないのは、例文の選び方であり、文法によって教科書に載っているものを先に使うのか、参考書などから引用して教科書の例文に触れるのかを判断する必要があるということでした。例えば、仮定法過去を授業で取り上げるなら、仮定法を知らない生徒でも、例文を一目見て「現在の事実と反する仮定を表すときに動詞の過去形が使われるのだな」と想像できるのが大切なのです。

私が授業を行なっていて最も苦労したのが、授業の作り方です。多くの先生方が私の授業を見ておっしゃっていたのは、「授業が単調になっているから、もう少し工夫が必要である」、「一つの授業をするには二倍・三倍の知識がないと成り立たない」ということでした。生徒たちは、教科書の内容ばかりだと、疲れてくるので、勉強面の知識以外に授業に関連した小ネタや時事的な出来事をいくつか準備しておくのが大切だと実習を通して実感しました。

一方、私が先生をやっていて良かった出来事の一つは、体育祭です。私は高校2年生の担任をしていたので、学年種目、団対抗パフォーマンスやリレーは非常にワクワクしたし、感動的でした。自分でも驚いたのですが、体育祭まで時間がない中、生徒たちがパフォーマンスの練習している様子を見たことがあったので、当日、クラスの子たちが団のメンバーと協力して、最後まで失敗なくパフォーマンスをやり終えた姿を見て、涙が出てきました。この瞬間、単純ですが、先生って良い仕事やなあと思いました。

最後に、教育実習は授業展開について悩むことがたくさんありましたが、その分、私を成長させてくれるものでした。もしこの実習がなければ、先生方の生徒に対しての思いやりや各授業においての様々な配慮に気付くことが出来ませんでした。こんなにも興味深く、やりがいのある職業は先生しかないし、以前よりも先生になりたいと思いました。だから、これからの大学生活は、この経験を活かしつつボランティア活動に励んでいきたいと感じました。



教職英語教育センターからのお知らせ



皆さん、こんにちは。蒸し暑い日々が続いていますが、体調を崩していないでしょうか。いよいよ夏が近づいてきます。同時に教員採用試験に向けて、ラストスパートの時期になりました。受験する学生は、集中して取り組むことが必要ですが、気持ちも大切です。絶対に合格！！という強い気持ちをもって、受験申し込みをした受験地には『責任』をもって、受験に備えてください。もちろん、体調管理はしっかりと、水分も十分に摂るよう心がけてください。

センターは随時、メールを送信したり、掲示を出したりしています。定期的に確認をお願いします。最近、学年を問わず教職課程履修者のつながりが増えてきていますので、教職に関する情報などはぜひ共有してください。その交流の場としてセンターを利用してもらっても構いません。質問や相談なども受け付けていますので、気軽に立ち寄ってください。

～教職共通ゼミ～

6月20日(月)から再開しました。今回からは、月曜日も追加され、7月22日(金)まで月・水・木・金曜日と週4回実施する予定です。教員採用試験を受験する学生は、最後まで粘り強く取り組みましょう。また、出題頻度の多い、コンピュータの問題を扱う講座も6月28日(火)・7月1日(金)に実施します。こちらは特に受験地を問いませんので、全員参加してください。

<スケジュール>

日時：6月20日(月)～7月22日(金) 毎週月・水・木・金曜日、5時限目の時間帯

コンピュータは6月28日(火)・7月1日(金) 6時限目の時間帯

担当：教職科目担当の先生方

場所：1107 教室(中宮学舎)

内容：筆記だけでなく、面接、ディスカッションも含め、実施します。

～KTAP(教職インターンシップ)経過報告～

活動している学生から活動状況について報告してもらっています。小・中・高等学校、特別支援学校、教育センター、他市町村ボランティアなど、活動場所はさまざまですが、概ね「楽しい!」、「勉強になる」という声が多くありました。しかし、よくよく聞いてみると、「児童・生徒との接し方に戸惑う」、「どこまで教えたらいかがが難しい」など、現場に入って初めて経験することがたくさんあるようです。しかしながら、良いことも悪いことも含めてすべて貴重な経験です。わからないことがあれば、担当の先生や校長先生に助言を求めることも知識や経験を増やすことにつながります。春学期は残り1か月弱です。積極的に続けてください。

～BUL～英語力スキルアップ講座

火曜日の5時限目に英語力アップを目的に実施しています。毎週単語テストを実施し、発音・語彙力等のベースアップを図っています。英語の先生になるのであれば、英語には自信をもって欲しいと考えています。ただ、英語力を本当に上げるためには、講座や先生だけに頼るのではなく、多くを占める「その他の時間」を有効に使い、学生として勉学にも励んでください。

～大阪府中学生サマーセミナー「英語漬け特訓道場@関西外大」～

サマーセミナー当日まで残り1～2か月となり、どちらのプログラムも大筋が決まってきているようです。最近では、1・2回生もミーティングの雰囲気慣れ、上回生の前でも積極的に発言し、アイデアを出す姿が見られるようになりました。このプログラムに興味を持った1・2・3回生は、ぜひ、来年参加してください。

→（宿泊版）

『Milky Way Galaxy 逆流事件！』

8月9日(火)・10日(水) 一泊二日



←（一日版）

『—KAMISHIBAI—

It's a Show Time!!』

8月23日(火) 終日

～TeCK～関西外大 TESOL 講座

現在、毎週木曜日に午後6時30分からライブ・ビデオ講義形式のTESOL講座を開講しています。今回の講座は昨年度より少ない人数で実施していますが、個々の発言力が高いようで、アクティビティーなどには全員が積極的に参加しています。また、講師であるJohn先生(オーストラリア、Flinders University IELI)との受け答えもスムーズにできています。

講座は、全7回、7月21日まで行われます。秋学期にも開講予定ですので、興味がある学生はぜひ、申し込みをしてください。(11月頃募集開始予定)

→昨年度のTeCKの様子

(今回の様子は次回の羅針盤に掲載します。)



引き続き、以下のプログラムを募集しています。希望するプログラムにはセンターカウンターにて期間内にサインアップをしてください。

☆教員養成特別講座☆

最後の講座は枚方市教育委員会教育長、行政評価局相談員の方々を講師として迎え、お話をさせていただきます。枚方市内の小・中・高等学校でボランティア活動をしている学生もたくさんいます

ので、今後の活動に活かすため、予備知識としても聴いてから即日役立つことがあるかもしれません。また、行政評価局とは、皆さんあまり聞きなれない機関かと思いますが、4名の方に来ていただき、学校現場や周辺で起こりうる事例や相談など、身近な話も含めて、たくさんお話をさせていただく予定です。ぜひ、出席してください。これまでの講座は質疑応答の時間にさまざまな疑問を投げかけ、答えていただくことができ、かなり充実した時間になりました。

なお、人数把握のため、講座の前日午後5時までにサインアップをしてください。

《第4回》

日 時：7月2日(土) 午後2時～(2講演)

場 所：1107教室(中宮学舎)

講 師：南部 一成氏(枚方市教育委員会教育長)河村 義信氏、他(行政評価局教育長)

テ ー マ：『枚方が望む教員像—今、枚方の教育がおもしろい—』

講 師：森畠 尚志氏(行政相談課課長)、小松 琴恵氏(行政相談課課長補佐)
藤井 豊氏(行政相談課首席行政相談官)、河村 義信氏(相談員)

☆ラポールひらかたデイサービスセンター☆

引き続き学生ボランティアを募集しています。利用者さんとお話をしたり、英語の本の朗読、レクリエーションゲームや手芸、工作のお手伝いなどをします。活動曜日は問いません。興味がある学生は、センターまで来てください。

活動時間：①10：00～12：00 ②13：00～15：00 ③10：00～15：00

連絡先：枚方市総合福祉会館(ラポールひらかた) デイサービスセンター
072-845-1701(担当：大石)

編集後記——教職英語教育センターより——

早いもので、あと一カ月ほどで夏休みに入ります。みなさんは予定を立てているでしょうか。8月は教員採用試験真っ只中ですので、のん気なことは言ってられない…かもしれませんが、せつかくの夏休みですので、もし出来たら『息抜きの時間』に夏らしいことをしてみてください。私は去年スイカ割りをしてとても楽しかった記憶があります。

1・2・3回生の皆さんも『勉強と遊び』に一生懸命になってください。ただ、遊びは意識しなくてもできると思いますので、勉強を意識しておくことでより充実した長期休暇になるかもしれません。